

経済学部

I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2018年度大学評価結果総評】(参考)

経済学部の自己点検・評価については全体的に適切であり、新カリキュラムにおける教育内容・教育方法・学習効果の改革を着実にかつ計画的に進めていることは高く評価できる。2016年度からの「新カリキュラム」の運用に加え、2017年度はすべての科目についてディプロマ・ポリシーを割り振り、さらにそれをもとに体系的なカリキュラムマップとカリキュラムツリーを完成させ、学習成果の測定に必要な基礎資料を整備することに成功した。今後は、新カリキュラムの教育効果の測定および評価方法への開発に向けた取り組みが求められる。また、2018年度9月からスタートする英語学位プログラム IGESS では、経済学部が主体となって開設への準備を進めており、グローバル教育への新たな取り組みに期待する一方、具体的な学生受け入れや学習支援およびカリキュラムの実効性などの検証が求められる。IGESS のプログラムと経済学部の日本語学位プログラムとの相乗効果を発揮する取り組みについても検討していただきたい。

入学者定員については、2018年度は過去2年に比べて超過率が改善されたものの、過去5年間の収容定員充足率が平均1.11であり、注意を要する。定員超過によって生じる新カリキュラムの運用および少人数教育や必修科目の教育体制の懸念に関して、新任教員を採用して演習担当者を増やす、1年次必修科目の不合格者対象クラスを増コマして実施する、などの対応を行っているが、学生の学習状況や教員の教育負担についても慎重に検証を行う必要がある。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

<グローバル化対応>

2018年9月より経済学部の英語学位プログラム「グローバル経済学・社会科学インスティテュート (Institute for Global Economics and Social Sciences 略称 IGESS)」(定員20名)の受け入れを開始した。初年度入試では38名の受験者を集め、無事スタートを切ることができた。1年次は市ヶ谷で授業を展開するため、市ヶ谷開催科目のIGESS担当教員を新規に採用するとともに、「First Year Seminar」を必修科目として配置するなど、入学生の学習・生活支援に努めてきた。さらに、2020年度春学期より、IGESS生は多摩キャンパスの授業を履修することになるため、IGESS生が履修できる「演習(ゼミナール)」を用意するとともに、多摩キャンパスに来てからの日本語教育継続のため、日本語の任期付講師を採用する人事案も決定した。

日本語学位プログラムでも、国際経済学科を中心に、英語を用いた経済学の専門科目の拡充を進めており、IGESSとの共通授業も多いことから、今後、日本語学位の学生が受ける経済学の英語授業の質も相乗的に高まっていくと期待される。経済学部は、今後も学生の多様性がますます進むことになるので、学生が積極的に交流し、多様性の環境を活かせるよう、英語学位プログラムと日本語学位プログラムの相乗効果を図る仕組みづくりに取り組んでいる。

<定員管理>

直近4年間の平均超過率は1.11倍にとどまっているものの、2019年度(2018年度秋入学者含む)の入学者超過率は0.99倍(2018年度は1.04倍)となり、定員管理の厳格化に成功した。その副次的な効果として、ゼミの充足率も急速に改善している。従来からゼミ相談会を開催したり、1ゼミ12名以上の合格者を出すべく努力するという施策を継続してきているが、それらに加え2018年度にはセミナー形式のゼミ合同説明会を新たに実施するなど、学生とゼミとのマッチングを高めるための試みも行った。これら施策が総合的に奏功し、入ゼミ希望者833名に対して、延べ823名がいずれかのゼミに合格した。

<新カリキュラムの検証・教育効果の測定>

2018年度は、2017年度に作成した「カリキュラムツリー」と「カリキュラムマップ」について、PDCAを回すべく専任教員がカリキュラムの整合性や順次性を最終チェックした。また、4月のオリエンテーションでも学科の説明時に使用し、学部のホームページにも公開した。合わせて、FD推進センターが策定した「ゼミ活動等を対象とした学生向けループブック(テンプレート)」を一部のゼミで試験的に実施し、学習成果の可視化に向けた取り組みも始めている。これらにより、今年度、経済学部として学習成果を実測(DPごとのGPCA分析等)するための基礎が整った。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

2018年度大学評価委員会からは、主に①英語学位プログラム(IGESS)における具体的な学生受け入れ体制や学習支援およびカリキュラムの実効性を検証する必要性、②IGESSと既存の日本語学位プログラムとの相乗効果の発揮、③現行1.11倍となる入学者の超過率の改善と定員超過がカリキュラム運用に与える影響についての検証に関して提言があった。①と②への対応について、経済学部はIGESS担当教員を新規に採用し、またFirst Year seminarの設置などを通して学習支援

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

に力を入れるとともに、日本語学位プログラムと IGESS との間に共通授業を数多く設置するなど相乗効果を発揮するための施策をとるなど優れた取り組みを行っている。IGESS に関する学生受け入れ体制と学習支援については、プログラム自体が始まったばかりということもあり、引き続き今後の課題となる。③にある定員超過問題については、2019 年度の定員充足率が 0.99 倍ということで、少なくとも今年度については解消されたといえる。しかし昨年度までの超過がカリキュラム運用に及ぼす影響についての検証は、学生とゼミのマッチングを高めるための取り組みなどが行われているものの、新カリキュラムの学習成果についての検証は継続されているとのことである。学習成果を測定するためのツールが構築されたことから、今年度中に検証が行われることを期待したい。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2019 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>4 年間一貫した積み上げ教育を行い、少人数教育としては、1 年次に「入門ゼミ」、2・3・4 年次には「演習（ゼミナール）」を配置している。「演習（ゼミナール）」は、各教員の専門分野に応じた高度な教育が行われ、学生生活の中心をなすものである。2013 年度からはすべての教員が「演習（ゼミナール）」を開講し、新 2 年生に対するゼミ選考での合格者を 12 名程度とし、ほぼすべての希望者が履修できるようになった。</p> <p>外国語科目の英語では、2016 年度より、全 3 学科で「熟達度別クラス」を導入する教育改革を実施した。また、英語を集中的に学び国際経済に精通した人材を育てることを目的として「スタディ・アブロード・プログラム」を配置し、16 単位を限度として留学先の単位を認定しており、毎年 50 名程度が参加している。またインターンシップにつながる企業実務研究や大和証券の寄付講座など、将来企業で活躍していく学生に対する準備的な教育内容も提供している。</p> <p>【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等 ・経済学部 履修要項</p>	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>経済学部のカリキュラムでは、経済学の基礎から応用までが自然に身につくように、柔軟かつ体系的に講義が編成されている。2016 年度から新カリキュラムが開始され、専門教育科目は必修科目、選択必修科目、選択科目、自由科目で編成されている。1 年次には、経済学の基本を学ぶ各学科独自の必修科目（経済学科「経済学入門」、国際経済学科「英語で学ぶ経済学入門」、現代ビジネス学科「企業と経済基礎」）が設置された。2 年次からは、各学科を特徴付ける選択必修科目を中心に、選択科目も履修可能である。</p> <p>3・4 年次には、さらに専門性の高い選択必修科目、選択科目が配置されている。自由科目としても、法学、政治学など、経済学の隣接分野も設置され、社会で活躍するために、社会科学の思考力や総合的判断力を身につけることができるよう配慮されている。</p> <p>「科目ナンバリング」も完備しており、授業科目の順次性と体系性を可視化し、明示化しているほか、2017 年度にはすべての科目について、どのディプロマ・ポリシーに該当するのかを網羅し、加えて各学科の「カリキュラムツリー」および「カリキュラムマップ」を完成させている。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学部 履修要綱 経済学科、国際経済学科、現代ビジネス学科 カリキュラム ・経済学部 履修要綱 経済学科、国際経済学科、現代ビジネス学科 専門科目一覧表 ・経済学部 講義ガイド（シラバス） 科目ナンバリング一覧 ・法政大学 Web シラバス https://syllabus.hosei.ac.jp/ ・経済学部カリキュラムツリー ・経済学部カリキュラムマップ 	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p>	
<p>総合教育科目は、人文・社会・自然の各分野のほか、異文化間のコミュニケーションを円滑に行うための語学力の向上と異文化についての学習を同時に行う「国際コミュニケーション」分野の諸科目などを加えた多彩な科目が開設されている。外国語科目は、複数の言語の中から第2外国語を選択できる（経済学科は6言語、国際経済学科は4言語、現代ビジネス学科は3言語）。</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・経済学部 履修要綱 ・法政大学経済学部ホームページ http://www.hosei.ac.jp/keizai/shokai/tokushoku.html</p>	
<p>④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p>	
<p>初年次教育の中心となる「入門ゼミ」は1クラス30名程度のクラス制をとっており、「入門ゼミガイドライン」に従って、専任教員がクラス担任として大学入門教育を行ってきた。2014年度からは、全学科（経済学科、国際経済学科、現代ビジネス学科）における入門ゼミの少人数化（1クラス30名前後）を恒久措置として実現し、きめ細かい指導が可能になるような改革を行った。</p> <p>2016年度からの新カリキュラムでは、各学科独自の初年次必修科目（経済学科「経済学入門」、国際経済学科「英語で学ぶ経済学入門」、現代ビジネス学科「企業と経済基礎」）が設置されたほか、ブリッジ科目として「ビジネス数学入門」も新設された。</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・経済学部 履修要綱 ・法政大学 Web シラバス https://syllabus.hosei.ac.jp/</p>	
<p>⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> S A B</p>
<p>※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p>	
<p>留学プログラムとして SA（スタディ・アブロード）を置き、希望者については成績等の審査の上、4ヶ月間の留学に参加させている。2015年度からは、留学先の大学がカナダのブロック大学を加えた4校に拡大し、さらに充実したプログラムとなった。SA留学の前後にも事前指導、事後指導を行っている。また、英語強化プログラム（ERP）を導入して、意欲のある学生に更なる学習機会を提供しており、2015年度より、学部科目として単位認定を実施することになった。</p> <p>2016年度より、グローバル教育センター主催の「短期語学研修」「国際ボランティア」「国際インターンシップ」を、卒業所要単位対象としてカリキュラムに配置した。以上のような語学教育にとどまらず、国際経済に関連した科目に加え、「世界の文学」「文化人類学」「世界の文化と思想」「国際関係論」「国際ビジネス論」等の科目を設置し、異文化に対する寛容かつ懐の深い態度を持つ学生を育成している。</p>	
<p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>2018年9月に IGESS を開設し、受け入れを開始した。市ヶ谷開催科目の IGESS 担当教員を新規に採用するとともに、「First Year Seminar」を必修科目として配置するなど、入学生の学習・生活支援に努めてきた。さらに、2020年度春学期より、IGESS 生は多摩キャンパスの授業を履修することになるため、IGESS 生が履修できる「演習（ゼミナール）」を用意するとともに、日本語の任期付講師を採用する人事案を決定するなど、日本語学位プログラムとの相乗効果を目指すべく受け入れ準備を進めている。</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・経済学部 履修要綱 ・法政大学 Web シラバス https://syllabus.hosei.ac.jp/ ・IGESS Student Handbook (Fall 2018-Spring 2019) ・法政大学経済学部ホームページ http://www.hosei.ac.jp/keizai/ryugaku/index.html</p>	
<p>⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p>	
<p>キャリア教育として、「キャリアデザイン論」の開講とともに、単位認定されるインターンシップ（科目名「企業実務研究」）を設置し、学部内委員会（SI 委員会）を設けて対応している。また高度会計人育成センターの会計専門職講座を設</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

け、同センターの運営にも積極的に協力し経済学部棟で講義を展開しているほか、公務人材育成センターによる公務員講座を設けるなど、学生のキャリア形成支援に務めている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・経済学部 履修要綱
- ・法政大学 Web シラバス <https://syllabus.hosei.ac.jp/>

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。

- ・4月最初に「新入生ガイダンス」を3学科それぞれで行っている。学科ごとに専任教員1名が履修指導を行い、基礎を重視し、系統だった履修を行うよう指導を行っている。また、履修上の事務的な注意も、事務課職員を通じて同時に行っている。
- ・公務員志望者および公認会計士志望者に向けた履修モデルを作成し、履修指導を実施している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018年度経済学部 履修要綱
- ・2018年度「履修ガイダンス」配付資料

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S A B

※取り組み概要を記入。

学生が主体的に勉強するための契機として、学生の研究を学会形式で報告する「学生研究報告大会」を2009年度より実施している。また、優秀卒論を学部Webに掲載して、学生の研究に役立てる取り組みも2010年度より始めた。さらに2010年度から、以前はゼミ所属の学生が自主的に行っていた「ディベート大会」「プレゼン大会」を、経済学部教員・学生からなる経済学部学会の主催として開始し、大きな教育効果が得られている。

学習指導では、1年次では「入門ゼミ」担当教員、2年次以降では「演習（ゼミナール）」担当教員が、学生の個別の相談に応じている。すべての教員がオフィスアワーを実施しており、個々に学習指導を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・経済学部 履修要綱
- ・法政大学経済学部ホームページ 優秀卒業論文 <http://www.hosei.ac.jp/keizai/zaigakusei/ronbun.html>
- ・経済学部 専任教員 研究室 オフィスアワー 一覧（履修要綱内）

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。

S A B

※取り組み概要を記入。

講義科目では、シラバスの必須項目に「授業外に行うべき学習活動」の項目を設けて、各科目で予習・復習すべき内容を周知し、指導を行っている。「授業支援システム」を通じて復習問題を課すなどの方策も、教員によっては取られている。しかし、授業改善アンケートからみると、学生の学習時間は全体としては充分とはいええず、学習時間の確保は今後の課題である。「演習（ゼミナール）」については、上記の学生の自主学習への試み（「学生研究報告大会」、「プレゼン大会」など）により、学生の授業外での学習時間が確保されている。また、年間の履修上限を40単位以下（2012年度以降入学者は、再履修単位として8単位が追加登録可）に抑えたことも、学生の学習時間の確保に資すると考えられる。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・経済学部 履修要綱
- ・法政大学 Web シラバス <https://syllabus.hosei.ac.jp/> 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
- ・学生研究報告大会、学生プレゼンテーション大会 報告冊子

④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。

S A B

【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

- ・授業支援システムを用い、学生の学習をサポートしている。
- ・英語強化プログラム（ERP）を導入し、2015年度より、科目として単位認定している。
- ・授業支援ボックス（手書き文字読み取りシステム）を用いた教育方法の普及を行っている。
- ・各教員がリアクションペーパーやアクティブ・ラーニング・セットを活用してアクティブ・ラーニングを実施している。

【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

ゼミ等でのアクティブ・ラーニングを推進するため、小教室のマルチメディア化を進めるための予算を獲得した。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※どのような配慮が行われているかを記入。 必修科目である入門ゼミと語学の授業、およびコンピューターを用いる実習授業については、受講者人数に上限を設け、少人数教育を進めている。なお2018年度は昨年度の入学増に伴い、経済学科必修科目である「経済学入門」について春・秋学期1コマ臨時増コマを実施している。	
【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 経済学科必修科目である「経済学入門」について臨時増コマを実施した。なお、2019年度から臨時増コマがなくなるため、各学科独自の初年次必修科目（経済学科「経済学入門」、国際経済学科「英語で学ぶ経済学入門」、現代ビジネス学科「企業と経済基礎」）について、進級再試を実施することにした。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・経済学部 履修要綱	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・学部として、成績評価の方針と年間履修単位の上限を、履修要綱に明示している。 ・成績評価基準をシラバスに明示し、執行部が事前にチェックしている。 ・経済学部として、科目間での成績分布に大きな違いをなくすよう、相対基準（Sは上位10%～20%の範囲を著しく超えない、Dは下位5%～20%の範囲を著しく超えない）を設定し、各教員に周知している。個々の科目の成績分布は、GPCA集計表により各教員が把握している。 ・大学評価報告書では、再履修を含めた場合50単位以上履修が可能となっていることが指摘されたため、2011年6月3日の教授会で、「年間最高履修単位を48単位にする」こと、それに伴い「3年次への進級に必要な単位として50単位を設定する」ことが承認された。 ・個々の事案が生じたときには、担当教員、執行部を通じて丁寧に対応している。場合によっては特別委員会を設けて、「成績評価の方法とその明示、運用の仕方」について対応している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・経済学部 履修要綱 ・法政大学 Web シラバス https://syllabus.hosei.ac.jp/	
②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組み概要を記入。 個々の科目の成績分布、および学部別や規模別等の成績分布については、毎期末、GPCA集計表により各教員に周知をさせている。各教員が自分の科目だけではなく、他の科目との比較もできるようになっている。なお、卒業要件にGPA2.0以上という条件を追加的に課すなどのGPA活用については、経済学部の現状になじまないため、今のところ適用は考えていない。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・GPCA集計表	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 ・学部、キャリアセンターを通じて把握しており、各進路の概数は、ホームページ等で公開している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・法政大学経済学部ホームページ 進路就職 http://www.hosei.ac.jp/keizai/shushoku/index.html	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基礎的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・成績分布については、GPCA 集計表により把握している。 ・進級などの状況は、学部（学科）として把握している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績分布（GPCA 集計表） ・法政大学経済学部 進級・卒業判定名簿 ・試験放棄（登録と受験の差）：定期試験については「受験者名簿」で把握しているが、授業内試験については正確には把握できていない。 	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>2016 年度に専任教員の担当科目に対して、どのディプロマ・ポリシーを達成する科目なのかを明らかにし、学習成果を測定するための指標を設定した。2017 年度にはすべての科目について、どのディプロマ・ポリシーに該当するのかを網羅した。それをもとに、各学科のカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップを作成した。これにより学習成果を測定するためのルーブリックの基礎資料が完成した。</p>	
<p>【2018 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2017 年度に作成した「カリキュラムツリー」と「カリキュラムマップ」について、PDCA を回すべく専任教員がカリキュラムの整合性や順次性を最終チェックしたほか、すべての授業科目について、履修を通じてディプロマ・ポリシーに示されたどの能力の習得につながるのかをシラバスに明記した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学部カリキュラムツリー ・経済学部カリキュラムマップ 	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p> <p>英語教育および SA では、TOEIC-IP 試験の実施により学習成果を測定し、英語能力の向上が確認されている。公認会計士試験の合格者数、公務員総合職の合格者数、学生の就職率などを学部として把握している。また、2013 年度から毎年学生モニターへのインタビューを行い、インタビュー学生およびその周辺の学生についての状況を把握している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育および SA：2018 年度 TOEIC-IP 試験実施調査結果 ・「学生モニター制度」実施報告書 2014～2018 年度 	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</p> <p>これから卒業論文に取り組む学生の指針を与えること、ともすればゼミ内にとどまりがちな評価について公平性を確保すること、学生の学習意欲を高めるように誘導することを目的として、優秀卒業論文を学部ホームページにて学内公開している。</p> <p>学生の活動を教授会が支える活動として、学生研究報告大会があり、報告要旨を冊子として作成している。同時に多くのゼミが参加してゼミ紹介を兼ねたポスター・プレゼンテーションも行っており、そのポスターは学内に一ヶ月程度掲示している。</p> <p>学生研究報告大会、プレゼンテーション大会、ディベート大会の様子については、経済学部学会のホームページで掲載している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学経済学部ホームページ 優秀卒業論文 http://www.hosei.ac.jp/keizai/zaigakusei/ronbun.html ・法政大学経済学部 学部パンフレット ・法政大学経済学部経済学部学会 学生の研究活動 http://www.hoseikeizaigakubugakkai.com/student/ ・学生研究報告大会 報告冊子 ・学生研究報告大会 研究報告ポスター 	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての学科で熟達度別英語クラスを導入しており、全3学科の英語教育の成果をTOEIC-IP試験の実施により毎年測定・検証している。1年生には毎年4月と1月にTOEIC-IP試験の受験を課しており、当該スコアを熟達度別クラス分けの資料として使用している。 SA参加希望者およびSAから帰国した学生については10月にTOEIC-IP試験を実施し、英語学習の成果を測定している。 「学生による授業改善アンケート」により、各授業で学生がその授業をどのように評価したかを、担当教員が確認するとともに、すべての独自機能を導入し、回答学生にアンケート結果のフィードバックを行っている。 就職比率や公認会計士試験等の資格試験合格者などを学部で把握し、情報を共有している。 <p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 授業改善アンケートの独自機能のうち、「回答学生への集計結果の公開機能」を新規に導入した。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> TOEIC-IP試験の実施（2018年4月、2018年10月、2019年1月） 「学生による授業改善アンケート」独自機能導入状況一覧 </p>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※利用方法を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「入門ゼミ」「英語」では、カリキュラム改革に向けた議論の資料として授業改善アンケートを活用している。入門ゼミでは、年度初めに担当者を集めた「入門ゼミ担当者会議」を実施し、各教員の指導方法を報告し合い、授業改善への気づきを得る機会を設けている。 2012年度より、シラバスにおいて「学生による授業改善アンケートからの気づき」を記入することが必須になり、各教員の取り組みが示されている。 授業改善アンケートを補完するものとして、2013年度から執行部が「学生モニター」へのインタビューを行い、学生の生の声を収集しカリキュラム改善のためのデータを集めている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> 大学評価支援システム 学部学科カルテ 3-A「卒業学部に対する満足度」 大学評価支援システム 学部学科カルテ 1-E「入学学部に対する満足度（新入生アンケート結果）」 2018年度春学期・秋学期「学生による授業改善アンケート<期末>」学部別集計結果 2018年度「学生による授業改善アンケート<期末>」学部別集計結果「入門ゼミ満足度」 学生による授業改善アンケート・入門ゼミ担当者会議・配付資料 2018年4月4日 法政大学 Web シラバス https://syllabus.hosei.ac.jp/ 【学生による授業改善アンケートからの気づき】 「学生モニター制度」実施報告書 2018年度 </p>	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・ディプロマ・ポリシーが11項目と細分化され、それに応じた体系的なカリキュラムツリーとカリキュラムマップが作成されている。学習成果の到達がより正確に把握可能となる基礎資料が整っている。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
特になし	

【この基準の大学評価】

①教育課程・教育内容に関すること (1.1)

経済学部では、学位授与に値する能力水準を、1.知識・理解、2.汎用的技能、3.態度・志向性、4.総合的な学習経験と

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

創造的な思考力という4つの分野ごとに細かく設定し、これらの達成水準を基に科目を「基礎教育科目」「保健体育科目」「外国語科目」「総合教育科目」「専門教育科目」という区分にバランスよく配置している。特に専門科目については基礎から応用まで知識を習得できるように体系的に設置している。また科目のナンバリングやカリキュラムマップ・ツリーの作成を通して、科目の順次性や体系性を可視化するなど学生に対する配慮にも怠りがない。以上のことから同学部は、学生の能力育成に資するカリキュラムの編成やその順次性と体系性の確保、および幅広い教養や総合的判断力を養うための教育課程の編成を高いレベルで達成していると判断できる。初年次教育と高大接続への配慮については、入門ゼミや初年次必修科目を通して、1年生にきめ細かい教育を提供しており、高く評価できる。学生の国際性の涵養については、2015年度から留学プログラムにおける留学先の大学を増やし、また英語強化プログラムを導入するなど優れた取り組みを行っている。また、キャリア関連の科目を設置するだけでなく、会計職や公務員を目指す学生向けの講座を設けるなど、充実したキャリア教育を提供している。

②教育方法に関すること (1.2)

経済学部は例年4月に開催される「新入生ガイダンス」や教職員による学生への直接指導を通して履修指導を行うとともに、学習指導については、入門ゼミや2年次以降の演習、またオフィスアワーを通して適切に行っている。学生の学習時間の確保については、シラバスや授業支援システムを活用した周知などを行っているものの、それによって学生の学習時間の増加を期待するだけでなく、今後新たな方策がとられることを期待したい。同学部は、教育上の目的を達成するために、英語強化プログラムの導入や授業支援ボックスを用いた教育方法、またアクティブラーニングの普及に努めていることから、効果的な授業形態の導入に取り組んでいると評価できる。また1授業あたりの学生数については、入門ゼミと語学、実習授業において少人数教育を進めるなどして配慮している。

③学習成果・教育改善に関すること (1.3～1.5)

経済学部では、成績評価と単位認定の適切性を確保するため、各教員に成績評価と単位認定基準をシラバスに明記させ、それを執行部が事前に確認している。また教員が成績評価を厳格に実施するように、成績の相対基準を設定し、その適用を教員に促すとともに、成績分布の結果および単位取得の状況についてGPA集計表を通して各教員に周知しており、これらの取り組みは高く評価できる。学生の就職・進学状況については、主に学部とキャリアセンターによる調査によって把握している。分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標設定のための取り組みについては、学部の全科目とディプロマ・ポリシーとの関連性を明示したカリキュラムツリーとカリキュラムマップを作成し、またシラバスには全科目とディプロマ・ポリシーに示された能力習得との関連性を明記するなどの取り組みを行っている。

学生の学習成果の把握については、TOEIC-IP試験、公認会計士試験、公務員試験の結果、学生の就職率、学生モニターへのインタビューなどを通して行っているとあるが、これらの試験の結果については、同学部の基幹科目（経済系科目）と必ずしも深い関連性があるとはいえないので、あわせて他の方策も検討する必要がある。学習成果の可視化については、優秀卒業論文をホームページにより学内公開したり、学生研究報告大会やゼミ紹介を兼ねたポスター制作、プレゼンテーション大会、ディベート大会などの実施を通して推進しており、学部内におけるこれらの活動は、学生の学習意欲の向上および成果の直接的な可視化を可能にするという点から優れた取り組みであると評価できる。学習成果の定期的な検証と教育課程の改善・向上に関する取り組みについては、TOEIC-IP試験によるクラス分けや授業改善アンケート結果のフィードバックが実施されているが、英語試験の結果は英語クラス分けにしか反映できず、また学生によるアンケート回答数は少ないことが推察される。これらの点を鑑みると、学部としてより総合的な取り組みを行う必要があると思われる。また経済学部は、各教員が自らの指導方法を報告し合う「入門ゼミ担当者会議」の設置やシラバスにおける「学生による授業アンケートからの気づき」の記入などを通して、学生による授業アンケート結果については組織的に利用されている。

2 教員・教員組織

【2019年5月時点の点検・評価】

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・「入門ゼミ担当者会議」：入門ゼミでは、年度初めの授業開始前に、担当者を集めた研修会を実施し、各教員の指導方法を報告し合い、質疑応答する機会を設けている。
- ・「専門必修ブリッジ科目担当者会議」：専門必修科目とブリッジ科目の担当者を集めて、各教員の指導方法を報告し合い、

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>質疑応答する機会を設けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教員による授業相互参観」：すべての教員が、他の教員が参観できる授業を1科目ずつ設定し、指定された1週間は、教員相互で参観できる。昨年度実施：2018年6月25日（月）～6月28日（木） ・学部独自の教員FDセミナーを年1、2回程度開催。 <p>【2018年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入門ゼミ担当者会議」：入門ゼミ担当者を集めた研修会を実施し、前年度の教育成果を振り返り、各教員の指導方法を報告し合い、質疑応答する機会を設けている。2018年4月4日実施。ゼミ担当教員は全員出席した。 ・「専門必修ブリッジ科目担当者会議」：専門必修科目とブリッジ科目の担当者を集めて、各教員の指導方法を報告し合い、質疑応答する機会を設けている。2018年7月13日および2019年2月22日に実施した。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入門ゼミ担当者会議」配付資料 ・「専門必修ブリッジ科目担当者会議」配付資料 ・「教員による授業相互参観について」スケジュールおよび実施状況報告書 	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学部学会を組織し、紀要である「経済志林」を刊行するとともに、全教員が定期的に過去4年間における研究活動報告を行うほか、年6回程度の経済学部学会研究会ならびに新任教員研究報告会を開催するなど、教員の研究活動の活性化を図っている。 ・比較経済研究所の比較研サロンを共催するなど研究活動の充実を図っている。 ・毎年、留学制度（在外研究員等）の積極的な活用を促しているほか、在外研修員（A3）についても柔軟に運用し、教員の研究活動・国際学術交流の向上を図っている。 ・卒業生組織とのサステイナブルな連携を構築すべく、毎年、経済学部同窓会での公開講座を開催しているほか、ディベート大会・プレゼンテーション大会において同窓会との連携関係の強化に務めている。 <p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>教育研究成果の社会還元活動の一環として、「八王子学園都市大学いちょう塾」（八王子市と大学コンソーシアム八王子加盟の25大学等により運営されている市民講座）へ講師2名の派遣を開始した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済志林第86巻1～4号 ・経済学部学会研究会開催通知 ・比較研サロン開催通知 ・八王子学園都市大学いちょう塾ホームページ https://web.my-class.jp/icho/asp-webapp/web/WTopPage.do ・学生プレゼンテーション大会 報告冊子 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・学部としての組織的な教育改善活動である「入門ゼミ担当者会議」や「専門必修ブリッジ科目担当者会議」を毎年定期的に開催し、授業改善のための情報交換や情報共有を行っている。 ・比較経済研究所に専任教員を派遣し（所長1名、所員2名）、同研究所の運営にも携わりつつ、研究活動の有機的な連携を図っている。研究成果として、比較経済研究所研究シリーズや、英文ジャーナル（Journal of International Economic Studies）を毎年刊行している。 ・卒業生組織とのサステイナブルな連携を構築すべく、経済学部同窓会との懇談会を定期的に開催し、また、定例の交流行事を毎年行っている。オレンジの集い、学生ディベート大会、プレゼンテーション大会への支援など。 	2.1①、2.1②

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

経済学部のFD活動は、主に各教員が指導方法を報告しあう「入門ゼミ担当者会議」と「専門必修ブリッジ科目担当者会議」、教員による相互授業参観によって構成されており、これらの活動は教員の指導方法を密に検証できるものとして高く評価できる。また、研究活動の活性化と資質向上を図るための方策として、主に学部紀要である『経済志林』の刊行、全教員による定期的な研究活動報告、年6回程度の経済学部学会研究会、新任教員研究報告会の開催、比較経済研究所とのサロンの共催を実施していることなど充実した研究活動を行っている学部の優れた取り組みについては高く評価できる。

社会貢献に関しては、学部の同窓会で公開講座を開催し、また八王子市と大学コンソーシアム八王子加盟の25大学等により運営されている市民講座（八王子学園都市大学いちよう塾）に学部から講師を派遣するなど、学部として前向きに取り組んでおり評価できる。

III 2018年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	内部質保証	
1	中期目標	学部の質保証体制を安定的に維持する。	
	年度目標	質保証委員会を、年度初め、中間、年度末と、年3回開催する。	
	達成指標	質保証委員会の開催記録。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	目標を超え、年4回開催することができた
		改善策	引き続き年4回の開催を目指したい
質保証委員会による点検・評価			
所見		年4回質保証委員会が開催され、第1回目・第2回目に目標設定、第3回目に中間評価、第4回目に最終評価と提言を行っている。	
改善のための提言	引き続き質保証委員会を年4回開催されたい。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
2	中期目標	2016年度開始の新カリキュラム（積み上げ教育、ブリッジ科目、英語熟達度クラス）の教育成果を検証し、次のカリキュラム改革を検討し、策定する。	
	年度目標	①積み上げ教育の成果検証②ブリッジ科目（高大接続科目）の成果検証③英語の熟達度クラスの成果検証。	
	達成指標	①②専門必修ブリッジ科目担当者会議を開催し、成果を検証し、教授会に報告する。③グローバル教育委員会で成果を検証し、教授会に報告する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	春学期末と秋学期末の2回、専門必修ブリッジ科目担当者会議を開催し、担当者間で学習成果を定性的に検証した。英語についても、担当者会議を開いて成果を検証した。
		改善策	引き続き、専門必修ブリッジ科目担当者会議を開催し、担当者間で学習成果を検証する。グローバル教育委員会で成果を検証する。次期執行部で、学習成果の定量的な測定を行っていく。
質保証委員会による点検・評価			
所見		年度目標である3つの成果の検証が適切に行われた。	
改善のための提言	必要な検証を引き続き実施されたい。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
3	中期目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。	
	年度目標	昨年度作成したカリキュラムツリー・カリキュラムマップを使って、カリキュラムの整合性や順次性を、専任教員がチェックし、改善を行う（PDCA）。	
	達成指標	学部専任教員への説明とフィードバックの反映。PDCAサイクルを回す。	
	年度末	教授会執行部による点検・評価	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	報告	自己評価	A	
		理由	教授会を通じてカリキュラムツリー・カリキュラムマップを説明し、改善点を確認した。また、オリエンテーションでも学科説明に使用した。シラバスに各科目がどの DP に対応するかを明示している。	
		改善策	今後も普及・改善に努めるとともに、PDCA サイクルをまわしていく	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	カリキュラムツリー・カリキュラムマップが教授会で説明され、所属教員によるチェックと改善が行われた。	
		改善のための提言	改善結果を検証し、引き続き改善に努められたい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】		
4	中期目標	学生の能動的学習（アクティブラーニング）の普及。		
	年度目標	正課授業におけるアクティブラーニングを学部全体に普及させる。		
	達成指標	次年度シラバスへの入力項目で、全員がアクティブラーニングを行っているという項目にチェックする。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	アクティブラーニングを行っているという教員は項目にチェックした。学期中はリアクションペーパーなど、ツールの普及に努めた。	
		改善策	アクティブラーニングを行っているという項目にチェックする教員を増やしていく	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		アクティブラーニングの実施について、現状の把握が適切に行われた。		
改善のための提言	どのようにアクティブラーニングを普及させるか、引き続きの検討が望まれる。			
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】		
5	中期目標	学生の能動的学習（アクティブラーニング）の普及。		
	年度目標	学生の主体的な研究活動であり、経済学部の実践知教育である、学生研究報告大会、プレゼンテーション大会、ディベート大会をより充実させる。		
	達成指標	学生研究報告大会、プレゼンテーション大会、ディベート大会の内容をより充実させて、ホームページに掲載する。学生の参加者数の向上。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	本年度も予定通り、学生研究報告大会、プレゼンテーション大会、ディベート大会を開催させた。	
		改善策	引き続き、内容を充実させ、学生の参加数を増やしていく。	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		学生研究報告大会、プレゼンテーション大会、ディベート大会が適切に実施された。		
改善のための提言	引き続き3つの大会を発展的に実施されたい。			
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】		
6	中期目標	カリキュラムツリーの活用を通じた学生の履修支援。		
	年度目標	カリキュラムツリー・カリキュラムマップの学部ホームページへの公開と履修ガイダンスでの説明。		
	達成指標	ホームページ公開と履修ガイダンスでの説明。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	カリキュラムツリー・カリキュラムマップをホームページに公開 (https://www.hosei.ac.jp/keizai/shokai/carriculum_map_tree.html) し、学部ガイド	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

			スでも説明した。
	改善策		引き続き、カリキュラムツリー・カリキュラムマップをホームページに公開し、学部ガイダンスでも説明していく
		質保証委員会による点検・評価	
	所見		「カリキュラムツリー・カリキュラムマップの学部ホームページへの公開と履修ガイダンスでの説明」という年度目標は、適切に達成されている。
	改善のための提言		引き続き実施されたい。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
7	中期目標	学修成果の把握に向けた取り組みを継続する。	
	年度目標	①入門ゼミ担当者会議を開催し、FD アンケートを組織的に共有しつつ、学修成果の把握を行い、改善への気づきを得る。	
	達成指標	入門ゼミ担当者会議の開催記録。	
		教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A	
	理由	目標通り、入門ゼミ担当者会議を4月4日に開催し、教員の運営方法について情報を共有した	
	改善策	引き続き、入門ゼミ担当者会議を実施していきたい	
	質保証委員会による点検・評価		
	所見	入門ゼミ担当者会議は適切に実施されている。	
	改善のための提言	引き続き実施されたい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
8	中期目標	学修成果の把握に向けた取り組みを継続する。	
	年度目標	②専門必修ブリッジ科目担当者会議を春秋両学期開催し、学修成果を確認し合う。	
	達成指標	専門必修ブリッジ科目担当者会議の開催記録。	
		教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A	
	理由	目標通り、2月22日に専門必修ブリッジ科目担当者会議を開催し、初年次教育について議論した	
	改善策	引き続き、専門必修ブリッジ科目担当者会議を開催する	
	質保証委員会による点検・評価		
	所見	「専門必修ブリッジ科目担当者会議」は適切に実施されている。	
	改善のための提言	引き続き実施されたい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
9	中期目標	学修成果の測定および評価方法の開発へ取り組む。	
	年度目標	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの完成と成長実感ルーブリック作成の取り組み。	
	達成指標	カリキュラムツリーの活用と成長実感ルーブリック作成のへ取り組み記録。	
		教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A	
	理由	カリキュラムツリー、カリキュラムマップをホームページに公開 (https://www.hosei.ac.jp/keizai/shokai/carriculum_map_tree.html) し、学部ガイダンスでも説明予定	
	改善策	来年度以降、成長実感ルーブリック作成のへ取り組み記録を実施する	
	質保証委員会による点検・評価		
	所見	カリキュラムツリーとカリキュラムマップは適切に公開されている。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基礎的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		改善のための提言	成長実感ルーブリック作成への取り組みが必要である。	
No	評価基準		学生の受け入れ	
10	中期目標		グローバル化対応として、IGESS、ダブルディグリー、外国人留学生入試で、学生の質は担保しながら、留学生を適切に受け入れる。	
	年度目標		IGESS（英語学位プログラム）の外国人留学生の入学数。	
	達成指標		IGESS（英語学位プログラム）の外国人留学生入学数。	
	年度末報告		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価		S
		理由		IGESS の応募人数は定員以上の 36 名であり、入学者は 18 名であった
		改善策		定員前後の入学数を実現するため、定員以上の応募者を目指す
		質保証委員会による点検・評価		
所見		周到な準備が行われたうえで、IGESS（英語学位プログラム）が発足したことは高く評価できる。		
改善のための提言		応募者の増加を目指し、引き続き適切に広報活動を行いたい。		
No	評価基準		学生の受け入れ	
11	中期目標		グローバル化対応として、IGESS、ダブルディグリー、外国人留学生入試で、学生の質は担保しながら、留学生を適切に受け入れる。	
	年度目標		ダブルディグリープログラムの開始。	
	達成指標		ダブルディグリープログラムの正式な開設（協定の調印と学内の承認）。	
	年度末報告		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価		S
		理由		ダブルディグリープログラムが正式に開設された。また現地に教員を派遣し説明会を行った。
		改善策		ダブルディグリープログラムの第 1 回入試を実施する
		質保証委員会による点検・評価		
所見		ダブルディグリープログラムは適切に開始された。		
改善のための提言		優秀な学生の応募を期待したい。		
No	評価基準		学生の受け入れ	
12	中期目標		入学者数の定員管理を厳格に行う。	
	年度目標		2019 年度入試において、入学定員の 1.0 倍程度～1.1 倍以下に入学定員を収める。	
	達成指標		2019 年度入試結果（学部入学者数）。	
	年度末報告		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価		A
		理由		2019 年度入試定員は昨年以上に厳格な査定を行った。
		改善策		2020 年度も引き続き、1.0 倍程度～1.1 倍以下に入学定員を収めるよう厳格な査定を行う。
		質保証委員会による点検・評価		
所見		2019 年度入試の査定は適切であった。		
改善のための提言		引き続き厳格な査定を行いたい。		
No	評価基準		教員・教員組織	
13	中期目標		次のカリキュラム改革を見越しながら、当該期間の人事採用計画を立て、年齢構成の均整化に配慮しつつ、人事採用を実施する。	
	年度目標		今年度募集中の 4 つの人事採用を、年齢構成にも配慮しつつ、成功させる。	
	達成指標		教員採用の成否。	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	4つの人事採用のうち2名の採用に成功した。本年度の退職者が1名であり、年齢構成の均整化を含め教学組織の質の向上に貢献した
		改善策	すべての人事採用が達成できるようにする
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	適切に人事募集と採用が行われた。
		改善のための提言	4名中2名の採用となったことへの対策を講じる必要がある。
No	評価基準	教員・教員組織	
14	年度末報告	中期目標	次のカリキュラム改革を見越しながら、当該期間の人事採用計画を立て、年齢構成の均整化に配慮しつつ、人事採用を実施する。
		年度目標	次年度の採用人事を起すとともに、中期的な人事採用計画を、教学人事政策委員会で議論する。
		達成指標	教学人事政策委員会と学部教授会の議事。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	12月15日および1月25日の教学人事政策委員会および教授会で来年度の人事採用とともに長期的なビジョンについて議論した
		改善策	来年度以降も教学人事政策委員会の議論を深め教授会でも議論できるようにする
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	採用人事については、委員会と教授会で適切な議論の上で決定されている。
	改善のための提言	継続的に議論されたい。	
No	評価基準	学生支援	
15	年度末報告	中期目標	外国人留学生の支援。
		年度目標	IGESS（英語学位プログラム）の外国人留学生への学修支援。
		達成指標	専任教員によるオフィスアワーの確保。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	平日月曜から金曜日にかけて IGESS 学生のオフィスアワーを市ヶ谷キャンパスで実施した。
		改善策	来年度も引き続き、オフィスアワーを実施する。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	オフィスアワーの実施により、留学生への学修支援が適切に行われている。
	改善のための提言	引き続き適切に実施されたい。	
No	評価基準	学生支援	
16	年度末報告	中期目標	外国人留学生の支援。
		年度目標	日本語外国人留学生の日本語能力の向上を含めた学修生活支援。
		達成指標	外国人留学生ガイダンス（1、2年生対象）の開催と、専任教員を交えた留学生懇談会の実施。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	6月30日に多摩4学部主催の外国人留学生懇談会が開催され、一定数の専任教員の参加があった。
		改善策	引き続き、外国人留学生懇談会を開催し、より多くの専任教員の参加を目指す。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	外国人留学生懇談会が開催され、学習支援の一助になったと評価できる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		改善のための提言	引き続き適切に開催されたい。	
No	評価基準		学生支援	
17	中期目標		成績不振学生への学修支援。	
	年度目標		成績不振学生（1年次：必修授業の欠席が多い学生、2年次：前年度 GPA が 0.8 未満で、進級要件を満たして進学した以外の留級学生）に対し、入門ゼミ担当者や学生広報委員を中心とした教員が、個別面談を行って対応する。	
	達成指標		成績不振者への面談（日程表）。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		A
		理由		成績不振者への専任教員による面談を前期（4月後半）と後期（11月後半）に実施した。
		改善策		来年度も引き続き、成績不審者の面談を実施する。
質保証委員会による点検・評価				
所見			成績不振者への専任教員による面談は、大変有効な学習支援となっている。	
改善のための提言		引き続き面談を実施されたい。		
No	評価基準		学生支援	
18	中期目標		成績不振学生への学修支援。	
	年度目標		必修科目については、「専門必修ブリッジ科目担当者会議」を開き、成績評価の情報を交換し、公平性も踏まえて対応する。「進級再試」についても検討する。	
	達成指標		「専門必修ブリッジ科目担当者会議」開催記録。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		S
		理由		2月22日に「専門必修ブリッジ科目担当者会議」を開いた。また「進級再試」の導入が教授会で承認された。
		改善策		引き続き、進級再試のもとでの「専門ブリッジ科目担当者会議」で議論する。
質保証委員会による点検・評価				
所見			公平性を含む適正な成績評価について、「専門必修ブリッジ科目担当者会議」で適切に議論されている。	
改善のための提言		新たに導入された「進級再試」の実施結果を検証されたい。		
No	評価基準		社会連携・社会貢献	
19	中期目標		教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動（公開講座など）に力を入れる。	
	年度目標		いちょう塾（八王子都市大学）の市民講座へ講師を派遣する（3名を予定）。	
	達成指標		2018年度いちょう塾公開講座実績。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価		A
		理由		2018年度いちょう塾公開講座へ教員を2名派遣した。
		改善策		引き続き、2名の教員派遣を継続する
質保証委員会による点検・評価				
所見			いちょう塾への講師の派遣と公開講座が適切に実施されている。	
改善のための提言		引き続き実施されたい。		
No	評価基準		社会連携・社会貢献	
20	中期目標		卒業生組織（校友会、後援会、同窓会など）との持続可能な連携を構築し、ステークホルダーガバナンスを一層機能させる。	
	年度目標		校友会、後援会行事を首尾よく行う。経済学部同窓会での公開講座、学生ディベート大会、	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		プレゼンテーション大会での連携協力を維持する。
	達成指標	各行事の開催記録。ホームページ上での連携の様子の社会への発信。
年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	2018年度の学部学会の活動をホームページに掲載し、社会へ発信した。
	改善策	引き続き、学部学会の活動をホームページに掲載する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	経済学部同窓会との連携が密に行われていることが、特に評価される。
	改善のための 提言	適切な社会への発信を継続されたい。

【重点目標】

IGESS（英語学位プログラム）開設に伴う外国人留学生の学修支援を重視する。そのために、IGESS 担当の専任教員によるオフィスアワーの確保とともに、初年度対応全般を丁寧に行う。

【年度目標達成状況総括】

IGESS（英語学位プログラム）について、先行する2つの英語学位プログラムの経験を活かして大きな問題なく最初のセメスターがおりつつある。初年度は定員以上の応募者があり、質の高い学生を定員前後確保することに成功した。IGESS 学生の最初の3セメスターは市ヶ谷キャンパスで実施されるが、IGESS 担当の専任教員によるオフィスアワーを確保している。とくにファーストイヤーセミナーを必修科目として開講し、専任教員が担当していたことが、留学生の学習支援に有効であった。

【2018年度目標の達成状況に関する大学評価】

2018年度目標の達成状況に関して、まず内部質保証については、質保証委員会を年3回開催することで質保証体制の維持を図ることを目標としており、達成までのプロセスは具体的であり、目標を超えて年4回開催したことは評価できる。教育課程・教育内容については、新カリキュラムの有効性を検証するため、年度目標として①積み上げ教育の成果検証、②ブリッジ科目の成果検証、③英語の熟達度クラスの成果検証、またカリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの整合性および順次性の検証と改善が設定され、これらについては検証および改善が行われており、プロセスと達成度ともに評価できる。

教育方法については、アクティブラーニングの普及とカリキュラムツリーの活用を通じた学生の履修支援のために、年度目標として正規授業におけるアクティブラーニングの普及と学生研究報告大会・プレゼンテーション大会・ディベート大会の充実化への取り組みが掲げられている。プロセスとしては問題がないものの、アクティブラーニングに関する達成指標については、単に全教員がシラバスにおける関連項目にチェックしたかどうか確認するだけでなく、具体的にどのようなアクティブラーニングを実施したのか具体的な内容を確認することが望ましい。

学習成果については、成果の把握に関する取り組みを継続するため、入門ゼミや専門必修ブリッジ科目の担当者による会議の開催、また成果の測定および評価方法を開発するためにカリキュラムツリー、カリキュラムマップの完成と成長実感ルーブリック作成の取り組みを行うとある。後者については優れた取り組みであると評価できるが、前者に関しては二年次以上の学生を対象とした学習成果の把握についても具体的な取り組みを行うことも必要ではなかろうか。

学生の受け入れについては、IGESS の留学生の適切な受け入れと入学者数の定員管理のための数値目標の達成が掲げられている。

教員・教員組織については、年齢構成の均整化に配慮した人事採用を実施するために、年度目標値を設定してその実践と中期的な人事採用計画に関する議論を掲げており、プロセス、達成度ともに妥当であると評価できる。学生支援については、外国人留学生と成績不振学生への支援のために、年度目標として、IGESS の留学生支援と外国人留学生の日本語能力の向上を含めた生活支援があげられ、プロセス、達成度ともに妥当であると評価できる。

社会連携・社会貢献については、教育研究成果を基にして社会へのサービス活動と卒業生組織との持続的な連携の構築のためにそれぞれ市民講座への講師派遣と既存の活動の継続が掲げられており、プロセス、達成度ともに高く評価できる。重点目標については、留学生の学修支援のためにオフィスアワーや初年度ゼミを開講するなど、プロセス、達成度ともに高く評価できる。

IV 2019年度中期目標・年度目標

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	学部の質保証体制を安定的に維持する。
	年度目標	質保証委員会を、年度初め、中間、年度末と、年3回開催する。
	達成指標	質保証委員会の開催記録。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	2016年度開始の新カリキュラム（積み上げ教育、ブリッジ科目、英語熟達度クラス）の教育成果を検証し、次のカリキュラム改革を検討し、策定する。
	年度目標	①積み上げ教育の成果検証②ブリッジ科目（高大接続科目）の成果検証③英語の熟達度クラスの成果検証。
	達成指標	①②専門必修ブリッジ科目担当者会議を開催し、成果を検証し、教授会に報告する。③グローバル教育委員会で成果を検証し、教授会に報告する。合わせて、学習成果の定量的な測定も実施する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。
	年度目標	昨年度作成したカリキュラムツリー、カリキュラムマップを使って、カリキュラムの整合性や順次性を、専任教員がチェックし、改善を行う（PDCA）。
	達成指標	学部専任教員への説明とフィードバックの反映。PDCA サイクルを回す。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	学生の能動的学習（アクティブ・ラーニング）の普及。
	年度目標	正課授業におけるアクティブ・ラーニングを学部全体に普及させる。
	達成指標	「アクティブ・ラーニングを行っている」というシラバス入力項目にチェックする教員を増やす。すべてのゼミ室にマルチメディア機器を導入し、ゼミにおけるアクティブ・ラーニングを推進する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
5	中期目標	学生の能動的学習（アクティブ・ラーニング）の普及。
	年度目標	学生の主体的な研究活動であり、経済学部の実践知教育である、学生研究報告大会、プレゼンテーション大会、ディベート大会をより充実させる。
	達成指標	学生研究報告大会、プレゼンテーション大会、ディベート大会の内容をより充実させて、ホームページに掲載する。学生の参加者数の向上。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
6	中期目標	カリキュラムツリーの活用を通じた学生の履修支援。
	年度目標	カリキュラムツリー、カリキュラムマップの学部ホームページへの公開と履修ガイダンスでの説明。
	達成指標	ホームページ公開と履修ガイダンスでの説明。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
7	中期目標	学習成果の把握に向けた取り組みを継続する。
	年度目標	①入門ゼミ担当者会議を開催し、授業改善アンケートを組織的に共有しつつ、学習成果の把握を行い、改善への気づきを得る。
	達成指標	入門ゼミ担当者会議の開催記録。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
8	中期目標	学習成果の把握に向けた取り組みを継続する。
	年度目標	②専門必修ブリッジ科目担当者会議を春秋両学期開催し、学習成果を確認し合う。
	達成指標	専門必修ブリッジ科目担当者会議の開催記録。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
9	中期目標	学習成果の測定および評価方法の開発へ取り組む。
	年度目標	カリキュラムツリー、カリキュラムマップ、DPの有効性・関係性を検証するために、学習成果の可視化に向けて取り組む。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	達成指標	GPA等の履修データを用いた分析結果。
No	評価基準	学生の受け入れ
10	中期目標	グローバル化対応として、IGESS、ダブルディグリー、外国人留学生入試で、学生の質は担保しながら、留学生を適切に受け入れる。
	年度目標	IGESS（英語学位プログラム）の外国人留学生の入学者数を増加させる。
	達成指標	IGESS（英語学位プログラム）の外国人留学生入学者数。
No	評価基準	学生の受け入れ
11	中期目標	グローバル化対応として、IGESS、ダブルディグリー、外国人留学生入試で、学生の質は担保しながら、留学生を適切に受け入れる。
	年度目標	ダブルディグリープログラムの第1回入試を実施する。
	達成指標	ダブルディグリープログラムの第1回入試受験者数。
No	評価基準	学生の受け入れ
12	中期目標	入学者数の定員管理を厳格に行う。
	年度目標	2020年度入試において、入学定員の1.0倍程度～1.1倍以下に入学定員を収める。
	達成指標	2020年度入試結果（学部入学者数）。
No	評価基準	教員・教員組織
13	中期目標	次のカリキュラム改革を見越しながら、当該期間の人事採用計画を立て、年齢構成の均整化に配慮しつつ、人事採用を実施する。
	年度目標	今年度募集中の3つの人事採用を、年齢構成にも配慮しつつ、成功させる。
	達成指標	教員採用の成否。
No	評価基準	教員・教員組織
14	中期目標	次のカリキュラム改革を見越しながら、当該期間の人事採用計画を立て、年齢構成の均整化に配慮しつつ、人事採用を実施する。
	年度目標	次年度の採用人事を起こすとともに、中期的な人事採用計画を、教学人事政策委員会で議論する。
	達成指標	教学人事政策委員会と学部教授会の議事。
No	評価基準	学生支援
15	中期目標	外国人留学生の支援。
	年度目標	IGESS（英語学位プログラム）の外国人留学生への学修支援。
	達成指標	専任教員によるオフィスアワーの確保。
No	評価基準	学生支援
16	中期目標	外国人留学生の支援。
	年度目標	日本語外国人留学生の日本語能力の向上を含めた学修生活支援。
	達成指標	外国人留学生ガイダンス（1、2年生対象）の開催と、専任教員を交えた留学生懇談会の実施。
No	評価基準	学生支援
17	中期目標	成績不振学生への学修支援。
	年度目標	成績不振学生（1年次：必修授業の欠席が多い学生、2年次：前年度GPAが0.8未満で、進級要件を満たして進学した以外の留級学生）に対し、入門ゼミ担当者や学生広報委員を中心とした教員が、個別面談を行って対応する。
	達成指標	成績不振者への面談（日程表）。
No	評価基準	学生支援
18	中期目標	成績不振学生への学修支援。
	年度目標	必修科目については、「専門必修ブリッジ科目担当者会議」を開き、成績評価の情報を交換し、公平性も踏まえて対応する。
	達成指標	「専門必修ブリッジ科目担当者会議」開催記録。「進級再試」の受験者数。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
19	中期目標	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動（公開講座など）に力を入れる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度目標	いちょう塾（八王子学園都市大学）の市民講座へ講師を派遣する（2名を予定）。
	達成指標	2019年度いちょう塾公開講座実績。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
20	中期目標	卒業生組織（校友会、後援会、同窓会など）とのサステイナブルな連携を構築し、ステークホルダーガバナンスを一層機能させる。
	年度目標	校友会、後援会行事を首尾よく行う。経済学部同窓会での公開講座、ディベート大会、プレゼンテーション大会での連携協力を維持するほか、2020年度に控えた経済学部創立100周年記念事業の企画を開始する。
	達成指標	各行事の開催記録。ホームページ上での連携の様子の社会への発信。100周年事業企画委員会の立ち上げ。

【重点目標】

学習成果の測定および評価方法の開発への取り組みを重点目標とする。当該目標を達成するために、学生の履修状況やGPA、英語外部試験のスコア、就職先、資格試験の合格状況、授業改善アンケート等、学部として利用可能なデータの有無を確認しつつ、学習成果の可視化に向けた検討・分析を進めていく。

【2019年度中期・年度目標に関する大学評価】

2019年度の年度目標とその達成指標については、2018年度のそれと大きな違いは見当たらないが、学習成果の測定に関する達成指標については、GPA等の履修データを用いた分析結果を活用するという前年度と比較しより効果的な指標が設定されていると評価できる。他方で上記項目で述べたことであるが、以下の点については、より効果的な達成指標を設定することが望まれる。

- ①教育方法について：具体的にどのようなアクティブラーニングを実施したのか具体的な内容を確認していただきたい。
- ②学生の受け入れについて：IGESSの留学生入学者数とあるが、具体的な数値目標を設定することを検討していただきたい。
- ③学生支援について：留学生への支援として、昨年度と同様にオフィスアワーの確保やガイダンスの開催などが達成指標とあげられているが、これらの施策は、日本人学生にとっても最も基礎的な学修支援であり、異国の慣れない環境で学生生活を送る留学生に対しては、もう少し手厚い支援を達成指標として考えていただきたい。
- ④重点目標として学習成果の測定や評価方法の開発が設定されることは妥当であると考えるが、引き続きIGESS対応、外国人留学生への学習支援も盛り込まれる必要性はないか、検討いただきたい。

【法令要件及びその他基礎的要件等の遵守状況】

特になし

【大学評価総評】

経済学部の自己点検・評価活動は、多くの点検項目において問題点が的確に把握されているだけでなく、それら問題点について具体的な対応策が提示されており、総合的に高く評価できる。特に教育課程・教育内容、教育方法、学習成果、研究支援に関する優れた取り組みには、経済学部としては私立大学で二番目に古い伝統学部の教育・研究力の蓄積を見出すことができる。

近年、他のMARCH系大学および関関同立など同ランクの大学において、様々なグローバル教育プログラムが立ち上げられ初年度は大きな注目を集め、それ相応の受験者数を集めている。そのため、新たに立ち上げられたIGESSについても、広報活動や学生の受け入れ体制、またカリキュラムの妥当性などについて客観的かつ詳細な分析が必要であると思われる。例えば、近年世界主要諸国では、AI・ビッグデータ時代の到来を受けて、統計的・数理的思考力の重要性が再認識されており、これは高等教育に関する社会的需要という観点からいえば、経済学部は他学部にはない大きなアドバンテージを有していることを示唆しているとも思われる。この経済学部が持つ強みをIGESSのカリキュラムにより大胆に反映させてもよいのではないだろうか。

経済学部は、2020年に100周年を迎えることもあり、これまでの学部の研究と教育の蓄積を土台に、国内外の学生にとってより魅力的な教育プログラムを提供し、グローバル教育の分野においても当大学をけん引する存在になっていただきたいと期待する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。